



国鉄千葉動力車労働組合

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番

(公) 043 (222) 7207 番

97.8.14 No. 4642

8・6広島・8・7岩国・8・9長崎反戦闘争

戦争マニュアル 阻止を誓う!

(新ガイドライン)

被爆五二年目の夏、動労千葉の代表団は、八・六ヒロシマ―八・七岩国―八・九ナガサキを貫く連続闘争を、交流センターをはじめとする全国の仲間たちとともにうちぬいてきた。

既成の原水禁運動が完全に変質し、今や電力会社の「核の平和利用」の第宣伝の場と化している否定すべき現実と向き合い、それを突破する新たな反戦・反核闘争として大きくかちとられたことの意義は重要である。なによりも、「二度と侵略の歴史を繰り返さない」ために、戦争への道にガイドライン(戦争マニュアル)改定阻止に全力で立ち上がることが熱烈に決意され、確認された。

8・6ヒロシマ

猛暑のなか、デモを貫徹！
―飛び入り参加者も―

広島平和公園での集会は、高校生をはじめ多くの「八・六」参加者が注目する中でかちとられた。闘う被爆者や反戦地主の知花昌一さんの発言にはまわりからも大きな拍手が湧いた。

とくに、戦争責任の語部をつつと続けている国労OBの人が飛び入りで参加して共にデモを闘い、夜の大集会にも参加し、「動労千葉も頑張れ」と激励され胸を熱くした。

夜には、国鉄労働者交流会が行なわれ、やる気を「充電」した。

心に響いた知花さん、本島前長崎市長、中谷康子さんの講演

一七時からアステールプラザで行なわれた「八・六広島反核・反核集会」は、会場を埋めつくす参加者の熱気が直に伝わる中、本島等前長崎市長が静かな中にも確信に満ちた口調で「天皇に戦争責任があるのは明白。私は右翼に撃たれ脅迫も受けたが、私の新年は変わりません。力を合わせて平和な日本と築くために頑張りますよ」と語り、割れんばかりの拍手が巻き起こった。

また、反戦地主の知花昌一さん、護国神社合祀違憲訴訟原告の中谷康子さんが権力の弾圧や右翼の脅迫、革マルの敵対をもとめせずに堂々と闘っているその体験に踏まえ「今橋本内閣は新ガイドライン戦争マニュアルという恐るべき戦争協定



の締結を強行しようとしている。ヒロシマ・ナガサキの怒りで新たな戦争への道を断ち切ろう」と訴え、九・二三代々木公園に大挙結集することが確認された。動労千葉からは、滝口執行委員、後藤特別執行委員がそれぞれ決意表明を行なった。

8・7出石国闘争

岩国基地に弾効のデモ
自治労県本部、岩国市職労からメッセーシ

八月七日、前日の広島闘争の疲れをもとめせずに、朝鮮侵略戦争に向けての最前線基地―岩国基地に向けて怒りのデモ行進を貫徹した。

八・七岩国基地撤去全国総決起集会には、自治労山口県本部、岩国市職労からも連帯のメッセーシが寄せられるなど、労働者の危機感と関心の高さをうかがわれた。

集会では、動労総連合の仲間から「岩国機関区は、新会社移行時に廃止されたが、突如また新設された。これは明らかに朝鮮有事を前提とした動きである。新機関区では、JR総連からの脱退者も統出しており、JR総連解体、ガイドライン戦争マニュアル改定阻止を一体のものとして闘う」と鮮明な方向が提起された。

臨戦体制の緊張感を肌で感じながら終始闘争的なデモを貫徹した。



8・9ナガサキ

四〇〇名が結集
九・二三(代々木)への総力決起を決意

八・九ナガサキ反戦・反核集会は、動労福祉会館には全国から四〇〇名の仲間が結集し、本島前長崎市長が呼び掛け人代表としてあいさつするなど力強い決起集会としてうちぬかれた。反戦地主会長の照屋さんが四―五月の沖繩闘争と今後の方向性について提起して全員が確認し、動労千葉からは川崎執行委員が、ガイドライン情勢下での国鉄闘争の重要性と九・二三全国集会へ全力で決起することを訴えた。

八・六―八・九の闘いをステップにして、ガイドライン戦争マニュアル改定阻止の九・二三全国集会に結集しよう！

労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!!